

第 4 回

台東区震災復興小学校の校舎及び
用地の有効活用に関する検討委員会

日 時 平成28年11月17日

台東区企画課

- | | | |
|-------|----------------|-------------|
| 1 日 時 | 平成28年11月17日(木) | 10:00～12:02 |
| 2 会 場 | 区役所4階 庁議室 | |
| 3 出席者 | 委員長 越 澤 明 | 副委員長 吉 川 徹 |
| (5人) | 委 員 元 倉 眞 琴 | 委 員 山 家 京 子 |
| | 委 員 野 本 孝 三 | |
| 4 欠席者 | | |
| (0人) | | |
| 5 事務局 | 企画財政部長 | 佐 藤 徳 久 |
| | 企画課長 | 酒 井 ま り |
| | 企画財政部副参事 | 佐々木 洋 人 |

(午前10時00分 開会)

○事務局 皆様おそろいになりましたので開始したいと思います。

それでは、委員長、本日の進行をよろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、これより台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を開会いたします。まず、配付資料の確認をお願いしたいと思います。

○事務局 それでは、事務局から配付資料の確認をさせていただきます。

(配布資料確認)

○委員長 委員会の傍聴についてお諮りしたいと思います。まずは本日の委員会の傍聴について、ご希望はございますか。

○事務局 本日、傍聴希望者は4名となっております。事務局で事前に承認確認を確認したところ、傍聴の要領に合致していましたことをご報告いたします。

○委員長 では、傍聴について、第1回委員会で決定したとおり、原則公開となっておりますので、傍聴を許可したいと思います。いかがでございましょうか。

(異議なし)

○委員長 では、傍聴を許可したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(傍聴者 入室)

○委員長 次第の2、第2回検討委員会の議事録の掲載について、事務局からご説明をお願いします。

○事務局 第3回検討委員会の議事録の掲載についてご説明いたします。

(資料1説明)

○委員長 よろしければ本議事録を検討委員会終了後にホームページに掲載したいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

○委員長 ありがとうございました。

続きまして次第の3、第3回検討委員会における意見回答について、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局 それでは、お手元の資料2をご覧ください。第3回台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会意見回答についてご説明いたします。

(資料2、別紙1～2説明)

○委員長 ただいまのご説明で、何かご質問等ございますか。

(な し)

○委員長 では、次第の４、提言（案）について、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局 資料３をご覧ください。台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する提言（案）についてご説明いたします。

(資料３説明)

○委員長 では、まず１３ページまでを確認したいと思います。

まず、提言の全体のタイトルはこれでよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 次に「はじめに」は少し私が加筆いたしました。全体として、そもそもの復興小学校がなぜできたのかというところを少し加筆しました。

それから、現在の台東区ですが、下谷区、浅草区という歴史的な地名を持った区があって合併してできていますので、それもやはりきちんと記載する。現実には下谷という地名自体が現に存続していますし、浅草もまた著名な地名です。歴史ある両区のもとに台東区があるということでございます。

多少不十分であるということである場合にはご指摘をお願いしたいと思いますが、よろしいですか。

(異議なし)

○委員長 それから、２、３ページの「復興小学校について」は、副委員長に原稿を書いていただきました。３ページが少し空いていますので、何か有効活用しますか。

○委員 復興小学校の特徴として３点挙げていただけていますが、ぜひそれに、地域の中心的施設としての講堂について加えていただきたいと思います。例えば、小林正泰氏の「関東大震災と「復興小学校」」が勁草書房から出版されていて、その書籍が日本建築学会の著作賞を受賞されているのですが、その中にも復興小学校の特徴として、講堂を地域の中心的施設として挙げられていますので、かなりしっかりとした論考の中での指摘ですので、ぜひその点を加えていただきたいと思います。

○委員長 ほかにご意見ありますか。

(な し)

○委員長 まず、それは参考文献に加えましょう。

それから、この部分は歴史的な部分なのである程度埋めるようにしたいと思いますので、委員にはなるべく早く具体的なご提案をいただきたいと思います。そして、委員全員と事

務局に報告してくれますか。

○委員 わかりました。

○事務局 ありがとうございます。第四ということで、講堂の視点を入れていただくということですか。

○委員 そうです。復興小学校の建築的な特徴といいますか、歴史的価値として認められていることを追加したいと思います。

○委員長 それから、佐野利器氏の話を入れてください。東京市建築史は佐野利器氏が指揮をとり、また水洗トイレ化も彼の趣旨で、ある意味では日本全体の先進的な内容であったことを少し書き込んでいただきたい。

当時の東京市の建築局長という新たにポストをつくり、非常に優秀な営繕部隊を率いていたわけです。東京大学の建築界の総力を挙げていた事業なので、そういったことも含めて、追記をお願いしたいと思います。

○事務局 佐野利器氏のことについては、2ページの中段辺りに記載しておりますが。

○委員 佐野利器氏と東京市の営繕については小林正泰氏がお書きになった本に言及があるので、もう少しここを補強したほうがというのは、確かにそのとおりだと思います。

○委員長 注釈の形でいいと思うのですが、当時の建築界全体を率いていた人で、耐震工学の祖です。当時は、大蔵省の営繕局が官庁営繕を行っていましたが、自治体レベルの営繕は、多分このときが飛躍的に伸びました。同潤会をやっている方々とほとんど似たような人たちですね。

○委員 また、この原稿をかくときには、委員からご紹介いただいた建築学会の復興小学校研究会がつくった資料集を参照いたしましたので、これも参考図書に加えてください。

○委員長 続きまして、4～7ページの「台東区内の震災復興小学校の変遷について」は、全体像を把握したほうがいいということで、5、6、7ページの追加をお願いしました。今まで台東区としてわかりやすく全体状況を示したことがなかったということなので、これは区としても必要なことだと思います。これもよろしいですね。

(異議なし)

○委員長 続きまして、8ページの「3. 現存する台東区内の震災復興小学校について」ですが、「次のとおりとなっております」とありますが、「次のとおりです」に修正してください。

○事務局 わかりました。全体の文調を確認させていただきます。

○委員長 8ページも下があいいていますので、これは縦方向に表をつくってください。

9～13ページは全部事実経過のまとめですので、何かお気づきでしたら、また細かくご指摘いただくということで、よろしくお願ひしたいと思います。

例えば13ページで言いますと、地元で検討はしているわけですが、我々の立場で公式にそれを聞いているわけではないので、最後の行は「検討をされている」というぐらいにしたほうが客観的かと思います。

また、旧下谷小学校と旧坂本小学校の検討経過は内容が過度に細かくなっているので、もう少しあっさりした方がいいと思います。

○事務局 わかりました。その文案につきましては、対応させていただきます。

○委員 10ページ、11ページの検討経過ぐらいのボリュームでよいかと思います。

○委員長 8～13ページの「3. 現存する台東区内の震災復興小学校について」はよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 続きまして、14、15ページの「各校の意見集約」をどう書くかということと、16ページの「提言のまとめ」がセットになりますが、順番に、各校ごとに議論していくことでよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 では、まず14ページの冒頭の6行はよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 では、6校ごとにいきたいと思いますが、またそれを含めて全体的なご意見もあれば発言いただくということにしたいと思います。

まず黒門小学校はいかがでしょうか。

非常に細かい点での字句のご指摘も、できればこの場でいただきたいと思います。

○委員 この6校に関して、かなり大きな関心事としては、その小学校は残すべきなのか、残さないで開発に使うものなのかということが、関心事だと思うのですが、今の文では言葉がとても曖昧です。例えば、「既存校舎の歴史的な価値の継承」と書いてあるのは、これは保存をした方がいいという意見をこの言葉で書いているのだと思います。そして残されない場合に関しては、旧下谷小学校の一番下、それから旧坂本小学校の一番下に書かれているように、「歴史的価値への配慮や記憶を継承する」という言葉を使っています。特に保存した方がいいということに関して「歴史的価値の継承」という言葉が、曖昧で

はないかと思います。場合によっては、違うような意味にもとれてしまう。

基本的にはやはり「保存」や「保全」、「残すべき」というようなはっきりした言葉にした方がよいのではないかと思います。

○委員長 その意見についていかがでしょうか。

黒門小学校と東浅草小学校、旧小島小学校、旧柳北小学校の4校についてということですのでよろしいですか。

○委員 はい。

○委員長 これはやはり現状の、存続しながら活用していくと、保存しながら活用していくということを4校共通で記載しましょう。

どういう表現がよろしいですか。簡潔に書いたほうが良いと思います。

例えば、「できる限り現状を保存し、有効に活用するものとする」と記載する。もちろん、建物ですから、必要なメンテナンスや細部の改修というのはあり得る前提の話で言っているわけです。

○委員 黒門小学校については、「使用していくことが望まれます」というように一番最後に書いてあるので、取り壊しを前提としていないということは、読めばわかると思いますが、「歴史的価値の継承」を例えば「維持」に直して、「使用していく」というところの前にもう一回、「現校舎を」を入れることで、より明快になると思います。

○委員 難しいというか、はっきりと言えないのですが、「歴史的価値を」むしろ建築の言葉を入れてしまって「建築的価値」とか「建築史的価値」とかにしてしまってもいいのかなと思いました。歴史的価値という言葉が曖昧さを生んでいる気もしました。

○委員長 歴史的価値というのは、ある意味ではもっと広い意味ですよ。

○委員 そうですね。

○委員 「校舎の保全を通じて歴史的な価値の継承をする」ということですね。

○委員 「校舎の保全を図りながら」とか。

○委員 この歴史的価値の「継承」という言葉が校舎にかかっているのか、歴史的な価値にかかっているのか、この文章だと曖昧だと思います。

○委員長 理由が後ろに書いてあるので、どういう判断をしたのかを最初にきっちり言ったほうが良いと思います。

「現状をできる限り保存するものとする」ときっちりと書くのがいいのではないのでしょうか。最初にきっちり言って、それで次に理由を書く。

どういう言い方がよろしいでしょうか。「今後も現状の保存に努めるものとする」と、それでもいいですよ。「できる限り」を入れても入れなくても、ほとんど同じですから。

○委員 提言ですから「できる限り」はいらないのではないのでしょうか。

○委員長 そうしましょう。黒門小学校については特段なければこのままでいいですか。

(異議なし)

○委員長 続きまして、東浅草小学校はいかがでしょうか。

公園は小公園にしましょう。

○委員 この提言は全部、震災復興小学校と書いてあるわけですが、今の復興小公園も、最初にその言葉が出てくるところで説明し、以降は復興小学校や小公園という用語に統一したほうがよいと思います。

○委員長 ただ公園は、やはり、大公園か小公園か、二分類で当時つくっていて、それは意味がある言葉だと思うので、これは小公園のほうがよいと思います。

○事務局 東浅草小学校に隣接している公園は、もともと公園が、やや場所が移ってきているものなのですが、そういう状況でも小公園という呼び方でよろしいでしょうか。

○委員長 それはもともと公共施設の再配置の中でずれてきているのは全然構わない。ただ、もとの立地はそれから始まっているわけでしょう。

○事務局 はい。

○委員長 当時の区画整理の換地の中でいろいろ苦労しながら少し位置をずらしたりしています。それは当然公共用地ですから、いろんな変遷の中で少しずつずれているのもあり得えます。

○委員 小公園併設52校に東浅草小学校が含まれているのですか。

○事務局 52カ所の小公園の中に、ここの公園が入っておりません。

○委員 入っていないとすると取り扱いは別にすることですね。

○事務局 そうですね。

○委員長 これは既存で、もともとあったものを使ったのですか。

○事務局 そうです。大正3年12月に既に開園をしていたものが、昭和4年に、やや今の場所に移って、再開園したということです。

○委員長 要は新たに生み出した箇所が52カ所で、既設を使っているところはそのような数え方になるので、思想は同じです。

もし気になるのであれば、どこかで注釈つけてください。

○事務局 先ほど読み上げたのは9ページの東浅草小学校の隣接公園のところに記載があるので、そこに記載します。

○委員長 思想は同じなのです。もともと公園ができているところはそれにくっつけようとしたので。小公園の言葉はそのままおかしくありません。

では「震災復興小学校」を「復興小学校」に少し短くし、「公園」は「小公園」に統一するというようにしてください。

東浅草小学校だけ地域に愛されるということで書いていますが、こういったところは少し統一していたほうがいいと思います。

○事務局 はい。

○委員長 旧小島小学校はいかがでしょうか。

○委員 このままでも特によろしいかと思いますが、あえて言いますと、やはり復興小学校というか、小学校が持っている校庭が都市部におけるオープンスペースとしてきているということを考えると、「今後、校舎の3階及び屋上、校庭」とはっていますが、校庭の今後の整備のあり方について強く言いたいということが1点あります。

もう一つ、先ほど地域に愛されるというお話がありましたが、ここはデザイナーズビレッジですので、市民利用、市民が復興小学校を体験できる非常にいい場所になっているので、カフェをつくるであるとか、そういった市民利用を積極的に促すようなプログラムが入ってくるといいと思いますが、いかがでしょうか。

最後の各委員の意見のところにも含まれてはいますが、ここに意見集約として入れていただけるかどうかというところです。

○委員長 いかがでしょうか。

これポイントは、今の旧小島小学校の活用の仕方は大変結構だと思いますが、実は使っていない箇所があるということと、校庭を駐車場化して、確かに有料で収益があるということなのですが、絶対にその形がよいのかということがあります。

○事務局 今のご意見につきましては、5行目の後半から7行目にかけて追記させていただきました。各校の文章量のバランスも踏まえ、「地域への開放」というような言葉に集約をさせていただければというところでございます。

○委員長 要は今の産業系の利用としては、現状で使っているのは結構で、よろしいのですが、学校全体をどうするかというのは、台東区としてはまだ不十分な点があると思います。場合によっては、産業系と別の文化系で、両方で使うなど、いろんなことを区として

の財産なので考えてほしいと思います。

あるいは、校庭は公園課のほうが公園とセットで管理していく方法がありますし、いろいろなことがあり得るので、提案を受けて、台東区役所としていろいろ考えてほしいです。

○委員 「新しい産業の活動及び支援」と書いてありますが、産業のところが強過ぎます。もう少し地域や市民のことであるとか、文化的なことも含めて活動してほしいので、文化という言葉を入れたほうがよいと思います。

○委員長 皆さん、いかがでしょうか。

下から4行目のところですが、産業ではもう使っているので、引き続き産業で使ってもらってもよいのですが、区として大事な財産だということで、全体を有効に使ってほしいというのが本委員会の趣旨なので、一番調和するのは、広い意味で文化でしょうか。世界遺産にも指定された都市ですから、もう少し台東区は文化に重視していただくということが大変重要だと思います。

○委員 あるいは「産業及び文化」とか。

○委員長 「産業・文化」くらいにしておきますか。産業が表にあったほうが、区にとってはよろしいかと思います。

○事務局 今は中小企業振興センターとして位置づけていますので、それに基づいた形で3階をどう活用するか考えているというのが現状で、文化的要素というのは次の次元になってしまうと思います。

○委員 ただ、デザイナーズビレッジを立ち上げたときに、単なる産業振興ではありませんよね。

○事務局 はい、おっしゃるとおりです。

○委員 もう既にその中に文化的な、つまり新しい活動が入っています。産業というと何かかたい感じになってしまうので、やはり地域の施設としてのイメージを持っておいたほうがいいのではないかなと思います。

○事務局 デザイナーズビレッジが初めにできて、ものづくりのまちという形で進めてきたのは事実として経過があります。その中で、後から全体の産業振興の拠点として旧小島小学校を使うため、中小企業振興センターと活用していくというのが現在の区のスタンスです。

○委員 「将来的には」と私が意見を申し上げたのは、単に産業の振興の中心をここにしなさいという意見ではなかった。それも含めて、全体の文化及び地域活動というようにも

っと積極的に捉えたほうがいいのではないかと考えています。あまり産業に特化するような印象を与えるのは、よくないと思います。

○委員長 台東区における産業とは何かということになるのですが、一般的産業というと、例えば、ここでソニーとかヤマハのような、昔のホンダのような産業をここでやるのかということです。新しい本田宗一郎氏をつくるということではないと思います。今、デザイナーズビレッジに入居している方々はむしろクラフト、むしろ文化に近い、文化産業ですよ。工芸とかジュエリーとか含めて。それから、今はあまり入っていないですがファッションとかね。それから、圧倒的に入っている方は女性ですし、現実にはそういうデザイナーの卵の方々というのは、女性が今後さらに進出していく分野です。

そこは、どう思いますか。

○事務局 今おっしゃられたのは、デザインという切り口を産業の面から見るのか、文化的要素を全部見るのかという部分のお話なのかなというように思います。委員長おっしゃるとおり、旧小島小学校に入っているところは、多分にデザイナー的な要素が強いとは感じております。

それを区として、事務局で申し上げたように、より文化の色を濃くして、例えば変な言い方ですけども、それほど収益が上がらなくてもよいというように、文化なのだからというようになってしまうのは、少し困ります。そういう意味では、区ではっきりと、産業も、そしていわゆる一般的な文化もというの今はっきりしない中では、文化を並列的に記載するのは難しいという気がいたしております。

○委員 やはりこれは委員名が入った委員会での提言ですので、これから後の議論にも関わらと思うので、台東区の意向もわかるのですが、そういった台東区の意向を聞きながら、この委員の意向を集約していただきたいなというように思います。

○事務局 例えば今のデザイナーのビレッジの取り組みについて、これがものづくりのまちという、台東区として文化という捉え方で、今の取り組みについてもそういった文化的な要素があるよというようなことを、この皆様でご理解をいただいた上で、そういった意味合いの、例えば文化というような言葉をつけるということであれば、よいのではないかと私は思います。

しかし、提言をつくる際に「産業・文化」という記載になると、本当にその文化というところが色々な意味合いがあるというところもあるので、もしその文化という言葉を入れるのであれば、産業的な取り組み、ものづくりのまち、そういった文化の面というようなこ

とを入れさせていただくのは、いかがでしょうか。

○委員長 以前、区内のいろんな視察をして、そうしたら、あのときには、今の1階の仕切りがなかったような気がします。

○事務局 東側のところと北側のところですか。

○委員長 区役所としての使い方であるようになってくるのは、傾向があって、小学校と小公園自体に高いフェンスがあったりする事例があります。日本橋の蛸殻町のパーク、昔の東京シティアターミナルのそばの小学校は、実は全く仕切りがなくて、一部に保育所が入っていたと思います。塀がない小公園と小学校というのは珍しい例なのですが、数寄屋橋の今の泰明小学校、確かに都心にあるので仕方がない面もありますが

、しっかりとしたフェンスに囲まれ、逆に小公園が裏の路地みたいになっている。また、十思小学校も塀で囲っているので、あまりよろしくないと思います。

色々な面で仕方がない部分もあるとは思いますが、復興小学校の中の建物自体に壁が入るというのはどういうことなのか。セキュリティや維持管理上のものであれば監視カメラと鍵の問題でどうでもなると思います。結果的に区役所というのは必ず所管の課を決める必要があるのですが、所管の課が全部好きなように使えるというようになっていくものなのです。現状の、担当課に問題があるという意味ではなくて、組織というのはそういうものなのです。

ですから、我々が常に言っているのは、区の全体の財産であるということです。そこで上手に使っていただき、場合によっては、区も色々な施設をつくる中で、復興小学校自体の施設を使わずとも、他のビルの中にでも入っていい施設もあるのであれば、将来移転し、復興小学校の建物を活用するに一番ふさわしいものが絶えず入ってくるといった形になるのが将来望ましいと思います。

中小企業振興センターのオフィスが永久にあることが一番いいとは思っていません。現状の使い方はいいと思いますが、例えば、代替の施設があれば、そこに自由に移転できる機能ではないかなと思っています。

現状の使い方は、東京都内の中の復興小学校の旧校舎では非常に頑張っている例なので、その点では大変評価していますが、もう一息取り組んでほしいというのが委員共通の見解というところです。

将来的にはという前提で書いているので、新しい産業にすると意味がわからない気がします。一番よいのは、区役所的には、新しいを取ってしまい、産業、次に文化、さらに観

光などがあると思います。

○事務局 少し広くなりすぎませんか。

○委員長 いや、広いからいいのです。そういう視点で。その中から最適な利用を考えていけばいいのです。

その中には、例えば、商業的に利用するというよりは、少し小さなカフェがあり、行政としてただ同様に近い形で、そこに入ってくれる方をNPOで募集する。やりたいという方は絶対いるはずです。そこにふらっと立ち寄れるというのが一番望ましい。そのかわり、一般の喫茶店とは同じではなく、7時に閉店することでもよいと思います。

そういった場所として今は使われてないので、そういったニーズがあるものすごく喜ばれるかもしれないです。

また、障害を抱えている方の雇用の方や集会の場、交流の場となるとやはり、そういうカフェ的なものが一番よいと思います。

ですから、「新しい産業の活動及び支援」を「産業・文化・観光などの視点で」ではどうでしょうか。

「旧小島小学校を新しい産業の活動及び支援をする拠点として更に拡大するなど」ではなくて、「旧小島小学校を産業・文化・観光などの視点も入れながら、より一層有効的に活用する」という内容はいかがでしょう。

○委員 私はそんなに大それたことで提案したわけではなく、産業という言葉ががちがちだということを言っているのです。新しい産業を興すというのは、単なる産業ではなくて、この旧小島小学校のようにデザインということを軸に、新しい人たちのインキュベーションスペースをつくることで、新しい産業のイノベーションをしようとしているわけです。現在そのように外から見えているのです。それを表すのに産業という言葉だけではだめだろうと言っているのです。ですから、「産業と文化」や「産業とデザイン」と入れて、将来に向けて新しいイノベーションをここで狙っているということを示すために、「産業と文化」と言ったほうがよいのではないのかと考えました。

将来的にはというのは私にはとっても重要で、今よりもっと発展させるという意味が込められているので、それは使ってほしいと思います。

○委員長 この将来は、来年でも将来ですから、10年後でも将来ですし、そういうことなのです。今後、今はできなかったことも、将来は出来るようになったというのがわかってくると思います。

○委員 その観光という言葉で薄めないでほしいと思います。

○委員長 そうですか。ひっかかりましたか。

○委員 つまり、結果として観光になる可能性はあります。例えば、展覧会をやればいろんな人が集まってくるとか、そういうことはもしかしたらアーツ千代田 3 3 3 1 も一種の観光地になりつつあるかもしれないけれども、そういった意味では観光というのは、結果としては出てくる可能性はありますが、それを目標として持つというのは、薄まってしまうと思います。

○委員長 いかがでしょう。これは委員主役なので意見を下さい。

産業と文化でいきますか。

○委員 クリエイティブ・シティ、創造都市政策などもありますけど、それは本当にデザインであるとかアートであるとか、そういったものが今後の都市の経済にも結びつくような活動です。

○委員 文化をやめてアートにしませんか。アートであれば、産業と密接ですし、明らかに台東区らしい、台東区の非常にすぐれた底力を活かせるような産業と、何かほかにはないデザインとかアートとかそういうものの結合体みたいなイメージを今持っています。

○委員 産業・アートでもいいですね。産業・創造、クリエイティブの創造。

○委員 それはいいかもしれない。

○委員 何か文化というと、では、文化会館をここへつくるという意味ですかと言われてしまうと違うかなと思います。

○委員 よくないですね。

○委員 もう少し今のイメージを活かしたほうがいいと思っています。

○委員長 文化政策ということは一番重要で、実は多分、日本の今後の生きる道の一つなのですけれども。では、クラフトはどうですか

○委員 創造というのは確かにいい言葉かもしれませんが。クリエイティブとかクリエーションとか、産業・創造とか、それであるとアートよりも創造のほうがさらによいと思います。

○委員 イノベーションとかインキュベーションに近い言葉です。

○委員 そういうような話で非常に近しいので、それで委員のおっしゃった最初のご意見、のように産業とだけ書いてしまうと、例えば金融で何かお金を貸すときのための事務所を入れるなど、意図とは異なるとられ方をしてしまうので、確かに産業・創造を入れておく

と一番イメージがわかりやすいです。

○委員長 ただ、現状は産業で使っているの、例えばクリエイティブ・シティの創造都市とやりますか。ストレートにそう記載する手もあるのですよ。そうすると何でも全部入ってくる。

○事務局 ただ、創造都市というと少しわかりにくいのではないかなと思います。やはり都市というCityですから、広くなり過ぎると思います。

○委員長 言葉で何をイメージするかは人によって違いますね。

産業・文化・アートぐらい、三つ並べようか、どうですか。

私はアートというと何か彫刻ができるようなイメージで受け取ってしまいます。何か、誰も通らないような広場のところに噴水があって、そういった駅前広場づくりはあちこちに全国多いのですけれど、あのようなイメージを持ってしまいます。

○委員 それだと、やはり創造、クリエーションという言葉が比較的イメージに合うような気がします。確かに文化というのはもう一つ、確かにいい言葉なのですが、先ほど申し上げたようにややずれてしまう可能性もあります。また、アートと文化を並べるのはあまりにも深いので、そうすると、非常にわかりにくいのですが、産業・創造ぐらいの感じがよいと思います。

クリエイティブ・シティの話は重要なので、後ろの旧小島小学校の意見のところに、クリエイティブ・シティを目指す台東区にとってこれは重要だとかというようなことを意見のところに付記することも考えられます。

台東区自体が確かにこのリチャード・フロリダのクリエイティブ・シティを目指すべきだというのは、恐らく納得するところだと思います。

○委員長 こうしましょう。それぞれの思いの部分は後ろに書き込むと、個別に提案をいたしましょう。

それで、全体を決めなければいけないので、こういう案はどうですか。一つは、例えば文化は各委員の意見が違うので、「旧小島小学校を今後も区の大切な財産として」くらいにあっさりさせてしまう。産業はもう使っているわけですから、分野は言わないということも一つの手です。

なぜかという、新しい産業活動というのは結局、何を考えているのですかということなので、その辺はまだ議論が深められなかったという気もしますのでどうしましょうか。

「潜在的な要素をより活かせる」も、少しこれはわかりにくいですね。

現状6校の中でいうと、建築デザイン的な感じの特徴が旧小島小学校が一番あるかなと、私は少し印象があります。

○事務局 事務局からですが、そうしましたら今までのご議論を踏まえまして、「いわゆる産業の活動支援」のあたりのことは参考資料の各委員のご意見に記載して、14ページ上の表現は、先ほど委員長がおっしゃったように、「旧小島小学校は今後も区の大切な財産として」という文言で区切る形はいかがでしょうか。

○委員長 そうしましょう。そこに「旧小島小学校の全体を」と入れて下さい。

○事務局 その書き方につきましては、今おっしゃった創造ですとかアートなどのキーワードがございましたが、そこは委員とご相談させていただき、事務局で調整をさせていただきます。

○委員長 では、一旦、先に進めたいと思います。

続きまして、旧柳北小学校、これはいかがでしょうか。

では、大分議論をしたので、冒頭の1行のところですけど、最初に冒頭に4校共通で何を入れるか。「今後も保存を前提に有効活用を進める」と、そのように書きますか。本検討会はどのように有効活用したらいいかという委員会なので、それを4校冒頭に入れるとよいです。4校はこれまで保存してきた経緯がありますので、それは大変我々としても区の努力を評価しています。そして、今すぐどうしても何か別のことにしなければならないというご説明や必然性はなかったと思います。

これは繰り返し言いますように、200年も300年も未来永劫ということはありませんので、要は一定の例えば50年後に、またこういうのをひもときながら、次どうしようかということを次のときに考えていただいて全然構わないわけです。

では冒頭に「今後も保存を前提に有効活用を図る」と入れて下さい。

あとの旧下谷小学校、旧坂本小学校についての表現も後で決めたいと思います。

旧下谷、旧坂本はいかがでしょうか。二つまとめて細かい点をお気づきでしたらご意見をお願いします。やはり結論で言うと、この後、「やむを得ない場合には除却も選択肢となり得ます」ということなのですが、まず、除却というのは区役所用語で言うと何を意味していますか。解体ですか。

○事務局 はい、そういったイメージを持っております。

○委員長 結果的に同じだったら、我々でしたら解体と言いますか。

○事務局 この言葉としては、事前にいただいたご意見の中からそのまま載せさせていた

だいたところでは。

○委員長 どちらがよろしいですか。

○委員 解体のほうがよいと思います。

○委員長 一般用語としては、解体のほうがよろしいですね。壊すということだったら。解体が取り壊しだと思うのですね。突き詰めるとここは、委員会ではどちらの方向を言ったのかということになります。

○委員 前回欠席してしまったので議論についていっていないところだったと思うのですが、委員会として、除却がやむを得ない場合は選択肢という提案は、私個人的にはそのように考えていなくて、そうした場合に委員会の意見として、事務局からのご説明でも、どちらの意見もあるという提言もあり得るのではないかというお話もいただいたのですが、そのような方向というのはないのでしょうか。

○事務局 旧下谷小学校と旧坂本小学校については、今までいただいたご意見でも、除却メインということではなく、ここはあくまで両論併記というように事務局では書いたつもりではおりますが、その辺はそう捉えられませんでしたか。

○委員 私はそのようには読めなくて、委員会としてやむを得ない場合には除却も選択肢となりえると読めました。

○委員長 これは16ページのところと絡むのですが、委員会側では積極的に除却とは言っていないくて、ここに「行政の主体的な判断により除却の選択肢となり得ます」ということで、つまり、壊す前にはしっかりと区役所は責任を持って、考えて判断しなさいということ。ですから、裏返して言うと委員会では積極的にそれは触れていませんということなので、そこら辺との、書き方との一致性を考えなければなりません。

それともう一つは、具体的な区としての判断がある程度煮詰まっていれば、それに対して、それがいいとか、もう少し考慮したらどうでしょうかとかなどというのはできるのですが、現時点で区の判断はありません。そこまで、この議論は終わることになりますので、それも加味しながら考えなければなりません。

○委員 文章的なこととして、その二つが並列されている必要があると思いますが、旧坂本小学校は「一部保存が望まれます」と言って「しかし」と基本的には並列の格好になっています。旧下谷小学校は「望ましいが」とつながってしまっているので、取りようによっては意見が逆転しているような取り方もできる。これは「望ましい」で1回やめて、「ただし」とか「しかし」というふうにつなげたほうが適切だと思います。

○委員長 ここは書き方を一致させるということで、今の委員からご提案ありましたが、「。」で1回切って「しかし」ということで、ここは一致させましょう。条件的には同じなので。

○委員 それでは私には両論併記には読めなくて、例えば旧坂本小学校についても、「全部又は一部の保存が望まれます。「しかし」となると、何か前段をひっくり返すような、本当はそう望まれるのだけれども、状況によっては仕方ないというように読めてしまう。

むしろ、下の「しかし」以降がその本筋な結論というふうに読めてしまうので、委員会では両論がきちんと出たということがわかるような表現にしていいただければと思います。

○委員 そうかもしれないです。

○委員長 具体的にはどういう書き方にしましょうか。

○事務局 例えば、段落もちゃんとそれぞれで分けて書くようなイメージもあると思いますし、あとは、思い切って委員会では次の二つの考え方が出たとすることもあるかと思います。

○委員 その方が私としてはすっきりしますが。二つの方向の議論があったとか、二つの意見があったというふうに書いていただくほうがすっきりすると思います。

○委員長 それをどういう表現にしましょうか、具体的に出していただけますか。

○事務局 事務局でつくった段階では、まずこの段階では他の4校とあまり書き方が異ならないように、このような書き方をさせていただいております。

例えば、「しかし」では理論の逆転といったイメージがあるようであれば、例えば「一方」とかという形の接続詞を使って、同じようにその文章の中で解決するというような方法もあるかと思います。

○委員 私は割と「異なる二つの意見があった」というふうにお書きいただいたほうが明確かと思います。

○委員長 突き詰めると、二つの意見が出て、二つの考え方を並べてみたということであって、それについて優劣をつけたという意味ではないと思うのです。

○委員 つまり、上の「望ましい」ということは、下と対立している話ではなくて、これ全員一致なのですね。

○委員 そうですね。

○委員 下のところは、そういう意見も出されたというレベルなのです。だから、それを両論併記はおかしいのです。結論は一つなのです。

○委員 おっしゃるとおりです。

○委員 そもそも建物としては、基本的にはそのまま活用することが望ましいということは、あらゆる意味で同じです。

○委員 全体一致で、「しかし」とか「一方」の後の部分が。

○委員 「一方」以降の部分については、こういう意見も出されたということです。

ですから、少しそれは事務局で書きぶりを調整していただき、上のほうは、単純に書く。先ほどのお話のとおり「望ましい」で切っていただいて、それは恐らくそういったことと読めますし、その下のところでは、こういう意見が出されたという形で書かれるという形になると思います。

そういう点では両論併記というよりは、やや、その価値については意見があった、それは認めるべきものである。一方でこういうような意見が出ているという、そういう形になるのではないですか。

そもそも壊すということ自体が価値を否定しているわけではないと、そこを踏まえていただいて、事務局のほうで、担当課と言葉を調整して下さい。

○事務局 箇条書きではなく、あくまで全体の意見がありつつ、こういう意見があったという体裁の文章の中身にするということですか。

○委員 この書き方であれば。それ以外の両論併記型で書くという考え方もありますけれども、両論併記型で書く場合には、その前にやっぱり歴史的な価値というのは重要であるということがあるというのと、その継承ということが大事だということを、そこを両論とは別にしていただかないと、その部分が消えてしまうと困ります。

○委員 ただ、歴史的価値を認めているのは各委員一致していて、その活用の方向性としては両論併記です。

○委員 その部分に限定して、両論併記という書き方はあり得ます。その場合には、その前に価値を認める部分というところは委員会の結論として書かれるべきだと思います。今の書き方は「望ましい」というところにそれが全部含まれているということ。つまり、保存して活用するという考え方と、除却して活用するという考え方と、両論併記ならそれで済みます。

○委員長 一旦、次の議論に進みたいと思いますが、今の議論とも関係があるのですが、16ページです。

まず冒頭の文章のところは、意義とか諸々を考えているので、具体的には、各論ではそ

の二つの、四角の中になります。ここは最初に黒門小学校を含めた4校は、結論をぱちつと書いたほうがいいかもしれません。

我々の立場ですから、この4校、これまで復興小学校を活用してきたことを大変評価しています。今後もこれを継続してほしいということです。それはもう結論そのものです。それは小学校施設として使う場面もあれば、小学校の機能を失った場合に別の形で使うということになるのです。それは将来的には、黒門小学校も東浅草小学校も、小学校機能が別のところに移るということの可能性もゼロではないわけです。ただし、あの建物をここまで残してきたところを我々は評価しているということです。

ここでは黒門小学校が来年どこかに移ってしまうということないので、存続している前提ですけれども、それは10年後、20年後はわからないので、小学校を別の比較的近いところにつくるということは、可能性がゼロではないわけです。我々の立場はあくまで可能性を検討しながら、どう見るかということなのです。ですから、台東区を評価するということも書いておかなければならないので、これまで保存し、それを活用してきたことを大変評価して、今後もそれを続けてほしいということを1行入れましょう。その後で続けるということではいかがですかね。

この旧下谷小学校、旧坂本小学校のところは、まさにこの一、二行入れるところが同じことになるので、どういう表現がよろしいですか。

多分これを、どの程度マスコミの方が見るかどうかかわからないものですが、数行ぐらい報道する可能性もあるので、この一、二行が一番ポイントになります。

いかがでしょうか。

○委員 具体的な、こうしたほうがいいというのではないのですが、旧下谷小学校か、両方言ってよろしいですか。

○委員長 両方ですね。

○委員 両校については、2段落目ですね、「望ましいと言えます。しかしながら」というこの文章ですと、望ましいんだけど結論は「しかしながら」以降にあるというふうに読めてしまう。私としては先ほど委員がおっしゃっていたように歴史的な価値はみんなでも共有しながらも、その保存の、利活用の今後の活用については二つの方向性があるというような書き方にしてほしいと思います。有効活用については、保存という選択肢と、「しかしながら」以降に書かれている方向があるということです。

○委員長 ここはやはり、1、2行を明確に入れなければならない。旧下谷小学校と旧坂

本小学校の2校については、現状は暫定活用しているというのは事実ですね。

○事務局 はい。

○委員長 そうであれば、まずこれは暫定活用を継続すると書いて、ただ、区としてこの地域のまちづくりの考えが明確になった時点でどうするかは、それは具体的に検討を進めてください。それは、逆に言うと壊してくださいという意味ではないので、我々としては判断はそれ以上できないということになります。ですから、暫定保存は当然ながらやってくださいということしか言えないと思います。

それは何を言っているかということ、我々の立場は、小学校全体は価値があるので、多少暫定といってもどういう使い方があるかというのは、色々な、幅が広いと思うのです。区の立場で言うと、修理をする費用をどうするかということがあるので、今のままの使い方で、それはそれで我々としては構わないわけです。ただ、ここを地域のまちづくりの核としてどう使うかということが、区として本格的に検討になった場合には、それは色々な選択肢があるということを言いたいわけです。

ただ、旧下谷小学校の場合に、台東区は都心ですから、全体は、上野駅が表玄関で、区としてこうやりたいというビジョンがまだ煮詰めてはいないときに、建物の一部、この位置を残せとか、ここをずらせとか、ここは何とか曳家できないのかということを経験できない。我々としては、具体の構想が出てくれば、ここは場合によっては鉄筋コンクリートであれば曳家もできますから、そういうことを含めてこういう可能性もありますよとか、このプランでこういう行政需要があるのだったら、やむを得ずこの部分は仕方がないということを経験するには至っていないということです。あくまで今は抽象段階、抽象的にいろんなことを想定しているだけで、我々があまり先走ってそれを議論するのもおかしいです。

○委員 確かに私たちは具体的な構想を受け取っていませんが、むしろこちらの提言をもって区にお渡し、この提言をもってよく検討いただきたいという位置づけではあるのかなと思います。

むしろ、その活用の構想をいただいてから、さあどうしようというよりも、本検討会の提言を区にお渡しするという位置づけで構わないと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長 いかがでしょうか。

○委員 今日旧下谷小学校周りを見ながら来たのですが、やはりオープンスペースとしても校庭はなかなか魅力的だったことと、最近いろいろ勉強したり、いろいろ教えて

いただいたりする中で、今回6校が対象になっている中で、講堂、体育館に当たるものが残っているのが旧坂本小学校と旧下谷小学校ということなので、それもあり貴重な学校であると思っています。

そこをしっかりと、今ある学校の価値を多くの人が共有しながら考えていけると、もう古いから壊すということではなく、できるだけ復興小学校の建築的価値を共有しながら物事が進んでいくといいなと思います。

○委員長 いかがでしょうか。

まず、議論の交通整理のために、15ページの記載は先ほどいろいろ皆さんから意見が出たとおりで、まず句読点と、「しかし」のところの表現のところは両校統一化させてください。冒頭で少し文章を入れるということではいいと思うのですが、問題は最後の16ページです。

○委員 15ページの議論まとめたものですから、16ページも同じ形式にすればよいと考えます。この文章の4行目からの「震災復興小学校のもつ歴史性を考慮すると、可能な限り既存校舎を活用することが望ましい」と、これが我々の主意見になります。

その次は、そのために、これは「実際に維持管理をすることが望ましい」という、冒頭の「その考えが示されるまでは、現行その維持管理に努め暫定活用していくことが望ましい」というのが具体的な方向の一つだと思います。

もう一つの意見としては、先ほどのこういう意見もあったという中で、一番最後、下のほうのそれを除却して、解体して使うという意見もありましたということに記載する。そのように組み立てるのが総論としてはいいのではないかなと思っています。

○委員長 その他、いかがでしょう。

○委員 正直言って、将来、区のほうではあまり拘束されると動けなくなるという心配があるのかなと思い、なかなか意見の言いにくいところがあるのです。

○委員 今、拘束しない議論をしているのだと思っています。

○委員長 この表現をどうするかですけれど、提言まとめの上の文章のところで、下から2行目、「現時点で活用の考え方が示されて」、これは主語がないので、台東区からと、あるいは行政からでもいいのですが。あるいは、まだ未確定であるということでもいいと思うのです。

要は、きちんと行政としての検討の説明責任を果たして、2校の場所について、そういう可能性も含めて行政として考えていきたいということであれば、きちんと説明責任を果

たして、こういう価値をどう検証するかということも含めて検討してほしいというところしかないと思います。

当然ながら、例えば旧下谷小学校で言えば、今のものを今の位置で残す前提での跡地利用計画をぜひ考えてほしいという立場の意見は当然あると思います。ただ、それで一致した意見集約とはしていないというところで、区としては自由度があるということで考えてほしいです。それは、例えば、そうなるといいなと思っている委員の方も個人的には多いと思いますが、一方では、区役所の場所が隣ですし、台東区はかつて上野駅が日本の中心的地であったが、そういった機能は残念ながらなくなっている中で、将来区役所の場所をどうしたらいいのかということです。今後の台東区としての政策の一つの課題になってくると思います。少なくとも20年以内に区役所の建て替えをどうするのかと言う議論が出てくるのは間違いないと思います。

そのときに非常に厳しい形で、拘束する形でこの提案を出すというつもりは、私はないと思います。じっくりと考えて下さいというところだと思います。ですから、その辺でどうおさめるかということになります。

それともう一つ、バランスがありまして、当然、地域の地元の方々の議論の中では、自分たちとしてはこういう施設をこの地につくってほしいので、そのためには、今のこの建物を解体することで新しいものをつくってほしいという意見を持つ方もいて当然いいわけです。地域からの要望ですので、行政としてはバランスをとって考えて下さいということです。また、区議会としては区全体の公共施設をどうするかという、お金を出す立場と、行政のチェック機能から当然意見が出るでしょう。こちらの議論は専門家に立った立場の意見だと当然このような意見だと思います。

ですから、この場で最終的に、この地域の将来をどうするかを決める場であれば、もう少し丁寧に、あるいは場合によっては地元の方々にも出席していただいて、直接ヒアリングをしたり、それから区の関係部局からもお話を聞いたりして、最後にこうしたらどうですかと最終答申的なものを出すということもあり得ると思いますが、もともとそれが役目ではありませんでした。本委員会で建築などを中心とした専門家グループから見たら、この場所はどうかということだと思います。

そこら辺をどう最終的にバランスをとるのか、我々のも、そのようなことを意識しながら、本委員会としてはバランスをとって、どの程度におさめるかということになると思います。

この「行政の主体的な判断」というところを、もう少し加えて、「行政が責任を持って判断していただく」とか、そのように変えておきましょう。

議会でも当然そういう解体前提の、非常に自由な建築をつくるみたいな議員の方も当然いれば、保存を基調にやれないのかという議員の方も、当然いろんな立場の意見が出ると思います。それに対して、区としてはこういう案でいきたいということを、区長、区の幹部、担当も含めて意思を決めたときには、それを説得して、納得してもらうというプロセスを経なければならないですね。当然そういう解体予算にせよ、新築の予算にせよ、区議会を通らなければいけないことですから、区議会の多数の議員に賛同いただくというのは当然やっていただくわけです。

やはり区の大切な財産だったということを認識した上で、しっかりとそのときに責任を持って考えてほしいということです。

ただ、そのときに建築的な部分の価値とか、歴史をどう継承するかということを、どのように表現するかは、最終的には、全面的に解体もやむを得ないがこういう措置をとると、一部残すとか、場合によっては一部曳家をするとか、それから別のところで復興小学校全体の何か文化的価値を継承するための努力をするとか、いろんな選択肢はそのときにぜひやっていただくということではないのかなと思います。

○事務局 今までのお話を整理させていただきますと、まず、歴史的な価値はあるということをも最初に持ってくる。そして、区として活用の方角性が決まるまでは現校舎の維持管理に努めて暫定活用をしていくという方向が出てくる。

「しかしながら」という表現は論理の逆転というようなイメージもあるので、その言葉はやめる。

それと、行政の主体的な判断というところは、行政が責任を持って判断するものであるというような言葉にさせていただきます。

○委員長 ここは判断して説明して下さいという、説明責任です。

○事務局 先ほどの「説明責任を果たして」というところと、あと具体的に解体ということになった場合には、どのように歴史的価値、記憶の継承を行うかは区として検討してほしいというようなことを入れていくというようなことでしょうか。

○事務局 「しかしながら」というのは「今後」くらいにしましょう。「しかし」ということは、ひっくり返されているというご指摘がありましたから、ニュートラルに「今後」にして下さい。

○委員 ご指摘のとおりで、「今後、除却も選択肢の一つだ」というのは例えば外してしまっ、というふうによこの敷地を活用するのよということは、行政が責任を持って決めてしっかりと説明をするよということが必要になるだろうよということです。ないしは、すべきだよということで、その場合に、もしもそれをやむを得ず解体よということになったとしたら、その場合には歴史を最大限継承すべきであるよという話ですよね。

ですから、基本的には行政が責任持っ、それらを選択して根本について最終的にどうするかは行政が責任を持って決めて、それを区民で共有してくださいよという形ですかね。それでも、基本的に両論併記よという形じゃなくて、その部分については歴史的価値を踏まえながら、区として最終的に決定をする責任があるよという指摘になるよということでしょうか。

○委員長 「今後」という意味は、実は極端に言うよ、この提言を出した日の翌日から今後が始まっているよ、それは別に数年後かもしれないしよということではいかですか。

○委員 除却も選択肢になるよというのは残すよということですか。外したらいかですか。

○委員 外すことも考えられます。

○委員 主体的な判断による検討をよということです。

○委員 主体的な判断による検討をしてくださいと、その後ろに、ただ、万やむを得ず除却となった場合には記憶を継承してほしいよことは言っておかないと、除却したときに、何もなくなってしまうのはよろしくないです。それは当然委員会としては、歴史的な付加価値があるよということですから、万やむを得ず除却になったとしても、そのところはしっかりと配慮しないといけませんよということは、当然最後に言わなければいけません。その前のところは、あえて除却を選択肢としてよというふうによ明記しなくても、区が主体的に判断することだよということであればよろしいのではないかと思います。

○委員長 16ページのところでは、「除却も選択肢」というところは外して、15ページにも書いてあるんですが、これは残しますか。

○委員 これは同じ表現でいいのではないでしょう。同じ意味ですよね。

○委員 はい。

○委員 区として最終的に区が判断しますよということであればよろしいと思います。とりあえず一つだけ提案があるんですが、先ほど委員がおっしゃった、旧下谷小学校の建築としての特徴、その講堂が残っているよという話は、この意見集約の中に載せておいたらいかがでしょうか。

○事務局 15ページのところに載せるということでしょうか。

○委員 はい。

○委員長 何行目ぐらいですか。

○委員 最初の「建物が「学校らしさ」を留めている」と、このところに「当初の講堂が残っている」ということを一言加えておいたらどうですか。

○事務局 旧坂本小学校のほうは、「講堂とか階段室」という表現があるので、旧下谷小学校にもそのような内容を追記するというのでしょうか。

○委員 そのような表現です。首尾よく、例えば長期にわたって残ったとしても、あるいは残念ながら除却になったとしても、少なくとも講堂が残っていることがここに書いてあれば、講堂についてしっかりと測量などをしなければいけないということを思い出せるから、そういう点では講堂が残っているという情報が載っているほうがよいでしょう。

○委員長 旧坂本小学校のところの「便所」は「トイレ」に用語変更してください。旧小島のほうはトイレと言っていました。

○事務局 そこは用語がばらばらでございましたので、ここは調整が必要なところだと思います。

○委員長 そうしますと、最終的にはこの16ページと提言の四角の中を見て、それは個別にどうなのかというのを、さらに興味がある方は14、15ページを見てというのが経緯になりますので、今の内容でよろしいですか。

(異議なし)

○委員長 区としての受け取り方は、この2校について今後具体の計画は、地元の意見は地元の意見としてあると思いますが、やはり区として全体的にさらに検討していただくということです。どういうタイミングで、何を、どうしたらいいかというところが煮詰まったときには、こういう歴史的価値をどう具体的に継承したらいいかという中で、新築や改築をするのであれば、その中でいろんな選択肢を区が考えるということになるのではないかと思います。

ですから、この中で、部分保存をやる可能性があるとか、どうしてもこういうものをぜひ何としてもここに入れたいので、ここはやむを得ず撤去しますということであれば、それに対応する措置をどうするだとか、ということをいろいろ、そのときに合わせて具体的に考えていただく。具体の作業としては部分的に設計とか検討を、設計事務所、コンサルタントに委託すると思うのですが、そういうこと含めて発注していただきたいと思います。

今後のスケジュールと、それから最終的な文章調整を行いますので、どのように進めたらよろしいですか。

○事務局 次回は、12月8日の午後3時開会ということで、後日、開催通知は送らせていただきます。場所につきましては本日同様、またこちらの場所になりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長 それでは時間となりましたので、第4回台東区震災復興小学校の校舎及び用地の有効活用に関する検討委員会を終わります。

○事務局 本日は、ありがとうございます。

(午後 0時00分 閉会)